トップニュース

本山で御正忌報恩講法要

1月9日～16日

浄土真宗を開かれた親鸞聖人のご命日（1月16日）を縁に、聖人のご遺徳を偲び恩徳を報謝する「御正忌報恩講法要」が、1月9日の逮夜（14時）から16日の日中（10時）まで、本山・御影堂で営まれる。

おつとめは日中・逮夜の法要と晨朝勤行（6時）、初夜勤行（15時半※15日は18時）。初夜に続いて、信心（安心）の正否を批判（判断）する儀式・改悔批判が行われる（13日除く）。

期間中、御影堂の余間には聖人のご生涯が描かれた「御絵伝」が奉懸され、13日初夜に続いて、「御伝記」（御伝鈔）が拝読される。また、14日逮夜に続いて、『御俗姓』が拝読される。

15日逮夜後、ご門主がご親教（法話）を述べられる。

主な行事等は次の通り。

▽御堂布教（日中・逮夜の法要前／御影堂）▽特別講演（11日～15日の11時10分／聞法会館・総合所）▽御絵伝解説（10日～13日の12時10分／同）▽お斎（10日～15日の日中後／書院※要申し込み）。

このほか、お茶所や白洲の特設テントなどで物産展・パネル展など。詳しくは本願寺ホームページ（「お西さん」で検索）。

福島・光慶寺　地震・原発事故・火災…東日本大震災からまもなく14年

門徒が集い本堂の上棟式

2011年の東日本大震災で大きな被害を受け、東京電力福島第1原発の事故で避難を余儀なくされていた2013年、ろう電による火災で本堂・庫裏・客殿が全焼した福島県南相馬市小高区・光慶寺（白江順昭住職）で11月26日、新本堂の上棟式が行われた。震災からもうすぐ14年、門徒の悲願がようやく形となった。

上棟式には門信徒、建築関係者など45人が集まり、白江住職（70）が讃仏偈をつとめ、全員が焼香した（写真）。

同寺は、東日本大震災で境内が液状化し本堂などは大規模損壊した。さらに2年後の10月に当地を襲った台風の際、無人だった庫裏から出火し、本堂・庫裏・客殿が全焼した。

その翌月、近隣の常福寺を借りて営んだ報恩講で、白江住職は「天明・天保の飢饉で荒廃した相馬藩復興のために、北越や山陰地方などから移住した真宗門徒の心の依りどころとして、1826年に建立された私たちのお寺。2026年の創建200年に向けて再建したい」と門徒に協力を呼びかけた。白江住職は当時を振り返り、「皆さん一同で『必ず再建するんだ』という決意でスタートした。だが、当時はまだ避難指示が解除されておらず、日中だけ立ち入り可能な状態。避難指示が解除になることを前提にし、再建委員会を結成した」と語る。

住職・坊守・門徒総代などで組織した再建委員会は、限られた予算内での建築を模索し奔走、今年3月19日に着工することができた。木造の本堂は来年7月に完成する予定。並行して内陣荘厳の作業が行われる。すでに2016年に完成した門徒会館の入り口のスロープから、渡り廊下を通って本堂まで階段を上ることなく行くことができるように設計されている。

上棟式を終えた門徒からは喜びの声が上がった。門徒総代の梅田光さん（84）は「上棟式を迎えられ、うれしい気持ちと安心した気持ちの両方。震災からもう14年近く経って、ここまでお寺も私も言葉では言い表せないくらい大変だった。やはり依りどころというのは大切。本堂が再建されればありがたい」と話した。同じく門徒総代の渡邊榮三さん（76）も「ここまで10年以上、今日は来られなかった先輩たちが委員となって運営され、ようやくここまでこれた。その方たちの『本堂再建』という悲願があり、今日の式を迎えられた。お寺は心の依りどころなので、早く完成してほしい。ここを離れていった人たちも、新しい本堂を喜んでくれるのでは」と複雑な表情を見せながらも、梅田さんと隣の席で喜び合った。

「心の依りどころ」再建に喜び

小高区は、震災前と比べていまだ半数以上の世帯が戻ってきていない。子どもの進学などで戻らない選択をした若い世代も多い。子や孫と離れて暮らす仏婦会員の平田順子さん（80）は「私たち夫婦は避難指示が解除されたら帰りたい、という一心だった。8年前にようやく戻れたが、その2年後に夫が亡くなった。お寺が心の支えになってくれたので、その死を受け入れることができた。地域には戻ってきた人が少ないから、普段のコミュニケーションはなくなってしまった。でもお寺に来ると、知っている人たちがいて、笑いと元気がもらえる。今日も来てよかった」と仏婦の仲間たちと笑い合った。

白江住職は「200年前、皆さんの心の依りどころとして光慶寺が始まっているので、ご門徒の声はうれしい。本堂ができたら、当然次代に繋げなければならない。その方法は具体的にすぐに言えるような簡単なものではないが、これからの時代にはこれからの人を対象にしていかなければならない。若い副住職が中心となって次代を背負って続けていってくれれば」と長男で副住職の頌英さん（30）の背中をたたいた。

頌英さんは「これまでお寺を支えてくださった皆さんが安心できるような方策を考えていきたい。一方でこれからの時代、小高に戻ってくる方、移ってきてくださる方々の依りどころとなるお寺作りは難しくなってくる。そこは皆さんと住職に力を借りながら模索していきたい」と語った。

逢坂憲吾の 四季折々に 境内を歩いて　最終回

御正忌報恩講と雪

連載の最後を締めくくるのは「御正忌報恩講と雪」です。

御正忌報恩講が営まれる1月中旬は京都においても雪の降りやすい時期ですが、今回紹介する写真は初夜のおつとめ直前に撮影したものです。夕闇が境内を包み、静かに降り落ちる雪のなか、ほんのりとあたたかな色味で堂を照らす提灯が美しく、この写真となりました。

白と黒のコントラストの中で厳かに浮かび上がる阿弥陀堂と御影堂、堂内から聞こえてくる読経の声によって、境内は冬の冷たさとともに引き締まります。

今年もまもなく終わりです。新しい年になると1月9日からは御正忌報恩講が始まります。参拝されましたら、このような雪風景に遭遇できるやもしれません。

1年間、10回にわたる連載をお読みいただき、ありがとうございました。僕自身にとってもこれまでの撮影を振り返る良い機会をいただきました。ぜひ写真集『西本願寺の風景』を手にご本山にお参りいただき、境内の四季折々の景色をお楽しみください。

撮影データ
カメラ D810
レンズ SP 70-200mm F/2.8 Di VC USD G2
絞り2.8 S.S 1/160 ISO1600

西本願寺の風景　好評発売中
四季折々に境内を歩いて
逢坂憲吾さんが約5年にわたり撮り重ねた本願寺の風景をまとめた写真集。1650円（税込）。お求めは本願寺出版社注文専用フリーダイヤル0120-464-583。

本願寺新報
hongwanji journal
12月20日（金曜日）
毎月1日・10日・20日発行
発行所　本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル　浄土真宗本願寺派（西本願寺）
〒600-8501　本願寺出版社内
電話 075(371)4171(代) ／ FAX075(341)7753

創業1400有余年の寺社建築技術
剛 金剛組
https://www.kongogumi.co.jp/
フリーダイヤル 0120-054-731

私たちのちかい

一、自分の殻に閉じこもることなく
穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
微笑み語りかける仏さまのように

一、むさぼり、いかり、おろかさに流されず
しなやかな心と振る舞いを心がけます
心安らかな仏さまのように

一、自分だけを大事にすることなく
人と喜びや悲しみを分かち合います
慈悲に満ちみちた仏さまのように

一、生かされていることに気づき
日々に精一杯つとめます
人びとの救いに尽くす仏さまのように

赤光白光

年の瀬が迫ってきた。今年は始まりの日、元日に能登半島地震が発生した。本紙では1年を通じて、被災した寺院や門信徒の現状、宗門の支援活動などを取材してきた。

▼被災地に足を運び、本堂や庫裏などが全壊した寺院の住職や寺族、自宅が全半壊した門徒、そして仮設住宅に入居した門徒の方々を取材した。出来上がった記事を見るたびに胸をよぎるのは、「出会った方々の思いをきちんと伝えきれたか」という自省の念。真剣に向き合い、語られる言葉を聞き漏らさないように耳を傾け、表情や仕草にもできるかぎり留意したつもりだ。しかし、一度お会いしただけでは、その内奥に潜む悲しみや苦しみをきちんとくみ取ることができたとは思えない。

▼人々の悲しみや苦悩に直接関わる震災や病院などでの取材は、取材者自身の、人としてその悲しみや苦しみにどう向き合うのかが問われているように思う。被災者の本当の悲しみ、苦しみを少しでもくみ取るためには、その人に寄り添い、息の長い取材を続けることが必要ではないか。

▼震災からまもなく1年となる。地震に関する報道も少なくなってきており、被災地からは「このまま自分たちのことが忘れ去られるのでは」と危惧する声も聞かれる。今年1年の反省を踏まえつつ、不安の中におられる被災者の方々を置き去りにしないために、取材者として何をなすべきかを自らに問いつつ、新しい年を迎えたい。

福岡支局 〒812ー0002 福岡市博多区空港前 3-9-16 善教寺内
電話 092(621)5163/FAX092(621)9400
購読料 1部120円(年間4,080円) 定期休刊 7月10日、12月10日
浄土真宗本願寺派 代表電話
宗務所 075(371)5181／大谷本廟 075(531)4171
宗派公式Webサイト　https://www.hongwanji.or.jp
本願寺ホームページ　https://www.hongwanji.kyoto

法藏館
https://pub.hozokan.co.jp
浄土教の展開
石田瑞麿［著］梯 信暁［解説］一、六五〇円
日本における浄土教の展開を、教理的観点から分析するとともに、社会一般の情勢とも関連づけて評価した恰好の概説書。
法藏館文庫
あきらめる勇気
―「見えなくなった」僕を助けてくれたのは
松永信也［著］一、五四〇円
見えなくても、今日も世界は美しい！ 難病で視覚を失った著者が「見えない」世界を伝える。泣いて笑ってほっこり癒されるエッセイ。
『教行信証』からひもとく浄土真宗の教え　重版出来
藤澤信照［著］一、九八〇円
梯實圓和上「浄土真宗本願寺派勧学」の名講義録「真宗要論」をもとに、著者が丹念に咀嚼・推敲を重ねた真宗教学のダイジェスト版。
真宗悪人伝　重版出来
井上見淳［著］一、九八〇円
善信房親鸞、熊谷直実、弁円、慈信房善鸞、唯善、蓮崇、顕如、教如、智洞、金子大榮。浄土真宗の歴史に輝く、「悪人」たちの物語！
〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入ル　TEL 075-343-0458　FAX 075-371-0458
表示価格は全て税込　新刊メール配信中！　お買上16,500円(税込)以上送料無料

最新刊
真宗からの華厳・天台読本2 教義編
北塔光昇著　定価2200円(税込)
真宗僧侶が華厳と天台の二大宗旨を深く学ぶことは、これからの伝道布教の上でも非常に重要である。この書では、前書経典編を踏まえ、各々の歴代祖師や教義をいくつかの部門に分けてわかりやすく解説する。
ラジオ法話 佛説阿彌陁經
土岐慶正著　定価2750円(税込)
極楽の光景や阿弥陀仏の加護力を、広く深く分かりやすく読み解いた好評の〝ラジオ法話〟を完全収録。「阿弥陀経」を理解する決定版として、初心者の方にもおすすめしたい一冊。
光を聞く(続) ―どう生き どう死ぬか―
松塚豊茂著　定価2750円(税込)
仏教概念と現実を突き合わせて、宗教一般・哲学的諸問題から信心・家庭・煩悩に至るまで全二十二項目に分類し、後世に残したい言葉を各々独立した短文で収録する。
永田文昌堂 600-8342 京都市下京区花屋町通西洞院西入 TEL 075-371-6651 FAX 075-351-9031

探究社 https://www.tankyusha.co.jp
お寺と家庭をつなぐ法話の便り
よろこび
執筆者 斯波 徹真 浄土真宗の風景 三上 章道 前田 壽雄 藤里ゆかりの地 近松 真定 伝説とお念仏
お正月
1320円
※100冊以上のご注文で割引有
故谷内正遠先生の木版画集「一人じゃない よ」から1月から12月の各月に合った版画を選び、卓上カレンダーを製作しました。価格は1部400円（税込）となっております。「ほのぼのカレンダー」とともにぜひお買い求めください。値下げしました。
お念仏のこころをはぐくむ 2025年(令和7年)版 ほのぼのカレンダー
A3判・タテ42cm×ヨコ29cm 1部150円
2025年（令和7年）版『ほのぼのカレンダー』を好評発売中です。例年通り、故東井義雄先生のお言葉を標語とし、毎月の絵はイラストレーターの諏訪間千晃先生、文字は故谷内正遠先生の版画文字となっております。
また、標語の解説書『正直者からは正直者の光が』も1部110円で発売しておりますので、カレンダーと共にぜひお買い求めください。
〒520-0027 大津市錦織2丁目9-30-101
TEL 077 (599) 4201　FAX 077 (599) 4220
【e-mail】post@tankyusha.co.jp　【表示価格は税込】

希覯学術書復刊事業
『教行信證講話（一）（二）（三）』三冊組
今から約六〇年前に製作された貴重な書籍。「教行信證講話」3冊組を内容はそのままに新たに令和仕様に蘇ります。
注文製作 オンデマンド書籍
著者 大江 淳誠　発行 永田文昌堂・百華苑
B5判 上製函入
一巻254頁／二巻244頁／三巻248頁 3冊組 定価29,700円(税込)
『本典研鑽集記』上・下巻 組
『教行信証』は浄土真宗立教開宗の書である。これを「本典」として拝読することが宗学の基本であるとされてきた。それは宗学院設立当初から、現在に到るまで一貫して変わることのない姿勢である。（序文より抜粋）
残部僅少　編集 浄土真宗本願寺派宗学院／A5判 上製函入
上巻505頁／下巻573頁 2冊組 定価30,800円(税込)
平成本 複製掛軸（絹本彩色）
親鸞聖人御絵伝 四幅掛軸
【原寸版】本紙寸法／134cm×77cm 掛軸寸法／193cm×81cm 定価1,100,000円(税込)
種々お見積り賜わります　サイズや表具柄等のご注文制作可能。お好みをお申し付けいただけます。
ご所蔵の掛軸の修復も賜わります
●ご注文の詳しい情報は 方丈堂出版 オンラインショップまで
方丈堂出版 https://hojodo.jp/ フリーダイヤル 0120-557-750 京都市伏見区日野不動講町38-25